

動機づけ面接と翻訳

代表理事 原井宏明 (なごやメンタルクリニック)



動機づけ面接は言うまでも無く、英語の Motivational Interviewing の訳です。私は翻訳の仕事もかなりしていますが、自分で本を書き下ろすよりも面倒な仕事です。悩みの1つが訳語の選択です。

“動機づけ面接”か“動機づけ面接法”なのか、“正しい反射”か“間違い指摘反射”か、“アンビバレンス”か“両価性”か悩みどころがいろいろあります。

このような悩みは日本だけのものではありません。2002年に出版された動機づけ面接第2版は、20カ国語以上に翻訳されています。中国語で検索してみましょう。MIは“動機性訪談”、“動機式晤談法”、“動機式會談”、“促動性交談”、“激活性面談”などと訳されています。大きな国だけに1つにまとめるのは大変でしょう。ドイツ語では“Motivierende Gesprächsführung”がもっとも多数派です。直訳ではそれで良いのですが、“Gesprächsführung”は日本語で言う、インタビュー、つまり報道記者などがインタビューしました、という意味になり、実際に合わないという意見があります。MINTメンバーの一人、Ralf Demmelは“Kommunikation auf Augenhöhe”を使っています。意識としてはこちらが適切です。しかし、それでは混乱が生じるのでドイツ語で書くときも Motivational Interviewing のままで訳さずに表記することが多いということでした。日本語もMIと書けば通じるのであれば、その方が誤解を招くことが少ないはずです。

一方、MIには言語や状況、文脈を超えて成立する部分があります。英語のMI本は1992年に出た初版、2002年の第2版、そして2012年の第3版とそれぞれ大きく変わっていますが、1998年に作られた Motivational Interviewing Professional Training Videotape Series を見ると、MillerやRollnickがするMIは当時と今も変わっていないことがわかります。ビデオを今、見ても、同じようにMIだとわかるのです。2004年に私自身が作成したビデオ(動機づけ面接トレーニングビデオ 導入編)を今、見ても同じことを感じます。最初にはっきりわかる違いは自分の頭髪の変化ぐらいです。

MIはMIとして変わるものではないとしても、翻訳のようにそれをどう伝えるか、広めるか、そしてどうトレーニングしていくかについては状況や文脈によって変わっていく必要があるでしょう。日本でMIを広めていくために、そしてクライアントの福祉の向上のために、伝え、トレーニングしていく工夫をできるかぎり続けていこうと心がけています。

協会認定資格について

教育委員会委員 加濃正人 (新中川病院 内科/禁煙外来)

本協会の目的は、動機づけ面接(MI)の認知を高め、実際の現場で利用できる力のある専門家を増やし、人々の健康増進に寄与することですが、そのための活動の一環として、MIやMIの訓練についての資格認定事業を行っています。

認定資格には「2級」「1級」「トレーナー」の3種があります。

- ・2級は学習者レベルとしてMI(他のものでない)を実施できる技術
- ・1級は実務者レベルとして十分なMIを実施できる技術
- ・トレーナーは講師としてMIを学ぶ者に適切な研修を実施できる技術

を保証します。

現在、2014年初旬を目処に2級の検定試験実施を準備しております。2級の受験資格は、協会が実施もしくは協会認定教育団体が実施した9単位(18時間)の研修を協会会員として受講していることが必要です。検定の方法は、2人1組のロールプレイ(各10分)を見せていただき、複数の試験者が動機づけ面接治療整合性尺度(MITI)等を用いて評価する予定です。MITIについては、下記リソースをご参照ください。また、認定教育団体の詳細や資格の更新方法等については協会HPをご覧ください。



- ・原井宏明の情報公開 <http://harai.main.jp/>
- ・原井宏明『方法としての動機づけ面接』岩崎学術出版

日常で使える動機づけ面接

理事 岡嶋美代（なごやメンタルクリニック）

動機づけ面接の技術が生きる場面は何かと考えると、その名前から印象づけられる「臨床家がクライアントに何らかの行動変容を迫る場面」というわけではありません。むしろ、日常生活の他愛もない場面の中にあることに気づかされませぬ。このシリーズでは、そういった動機づけ面接のスピリットを生かした会話のやり取りを紹介していきたいと思ひます。なお、この会話集は、個人が特定されないように内容を改変していることをご了解ください。

夫：来月の最後の休日は動機づけ面接の研修会に行こうかと思うんだけど。

妻：え？その日は休みって言うていたのに、また？

夫：またって・・・

妻：いつも、いつも何だかわけのわからないセラピーの研修会に行って

夫：わけのわからないセラピーじゃないよ

妻：お金を節約しようって言うたばかりなのに

夫：そうだけど、行きたいのがあったので、頼むよ

妻：どうせ、もう申し込んだんでしょ、結局、私の意見なんて通らないんだから

夫：・・・

とまあ、パートナーがいるご家庭ではよくありそうな光景です。このような会話を自然に動機づけ面接を組み込んでいくにはどうしたらよいでしょう。不自然であってははいけません。変えろとすれば、反論しているところですよ。反論にだけ乗らないようにします。ここは家庭の中ですよ。目的はパートナーと仲よく暮らすことのはずですよ。妻をディベートで打ち負かそうと思うなら別ですが、研修会参加を許可してもらいたいという目的志向的に言葉を使おうと思うなら、反論することに意味はありません。わけのわからないセラピーと言われて、相手の言葉に煽られてムツとした気持ちを表に出してしまわないよう、そこだけ家庭では注意します。いや、臨床でも注意します。

妻：いつも、いつも何だかわけのわからないセラピーの研修会に行って

夫：うん、うん。なんか、家庭の中にも役立つような研修会があったらいいよねえ、「夫の操縦が上手くなる魔法のセラピー」とかあったら、行きたいだろ(笑)

妻：まったくよ。いつも口が上手いんだから(笑)

こういうことも、動機づけ面接でいう聞き返しの技術の応用ですよ。役に立たないと思ひている妻の気持ちを汲んで聞き返すとよいコミュニケーションに変わっていく予感がします。



事務局からのお知らせ>>> ミラー博士インタビュー動画

2013年3月1～3日に愛知大学名古屋キャンパスにて開催いたしました日本動機づけ面接協会の総会後に、原井先生がウィリアム・ミラー博士にショートインタビューをしました。その内容を、動画にて限定公開しております。詳細は、日本動機づけ面接協会ホームページ内の「会員専用ページ」にログインのうえ、ご確認ください。

一般社団法人日本動機づけ面接協会 事務局
<http://www.motivationalinterview.jp>

